

文・皿木喜久

題字・藤渡辰信

紛争の時代に「ひとつ教育改革をやりようと思ったのです」と語る中曽根康弘元首相
—大山実撮影



中曽根康弘（なかそね・やすひろ） 大正7（1918）年、群馬県高崎市生まれ。東大卒業後、内務省に入り、海軍主計少佐で終戦を迎えた。昭和22年、群馬3区から衆院初当選。民主党、改進黨から保守合同後、自民党に所属。34年岸内閣の科学技術庁長官として初入閣。中曽根派を結成後、運輸相、防衛庁長官、通産相、自民党総務会長、幹事長など要職を歴任。この間、拓殖大学の総長・理事長をつとめた。鈴木内閣の行管庁長官から57年11月、首相に就任。国鉄民営化をはじめ、日米関係の強化に取り組み、靖国神社参拝も行った。62年10月に退陣、戦後3番目の長期政権を記録した。憲法改正論者で、一時首相公選論を唱えたこともある。平成15年、小泉純一郎政権での総選挙に出馬を断念、政治の表舞台からは引退した。

「今、世界のために汗をかき人材を育成する国際大学を志向してきた本学の出番がやってきた。新しい出発にあたり今後精進につとめたい」
それが桂太郎をはじめ後藤新平、中曽根康弘ら歴代の指導者たちに引き継がれてきた思いだと言えよう。
（文中敬称略）
—おわり

紅陵に命燃ゆ

「全共闘の時代」に伝統守る

その15 中曽根康弘総長

長（学長）をつとめることは珍しいが、中曽根はそんな政治家ではない。49歳と政治家としては若かったが、すでに衆院当選9回、閣僚も経験し、「新政同志会」という派閥を率い、将来は宰相を目指すバリバリの若手実力者だった。加えて初当選以来、吉田茂政権と対決し、「青年将校」といわれた。今風に言えば「イケメン」で弁舌もさわやか、文句なしに格好いい政治家でもある。その中曽根がなぜ、わざわざ大卒の注目を集めた。自民党の衆院議員、中曽根康弘が拓殖大学の第12代総長に就任したのである。拓大では、初代の桂太郎をはじめ第3代の後藤新平ら政治家が総

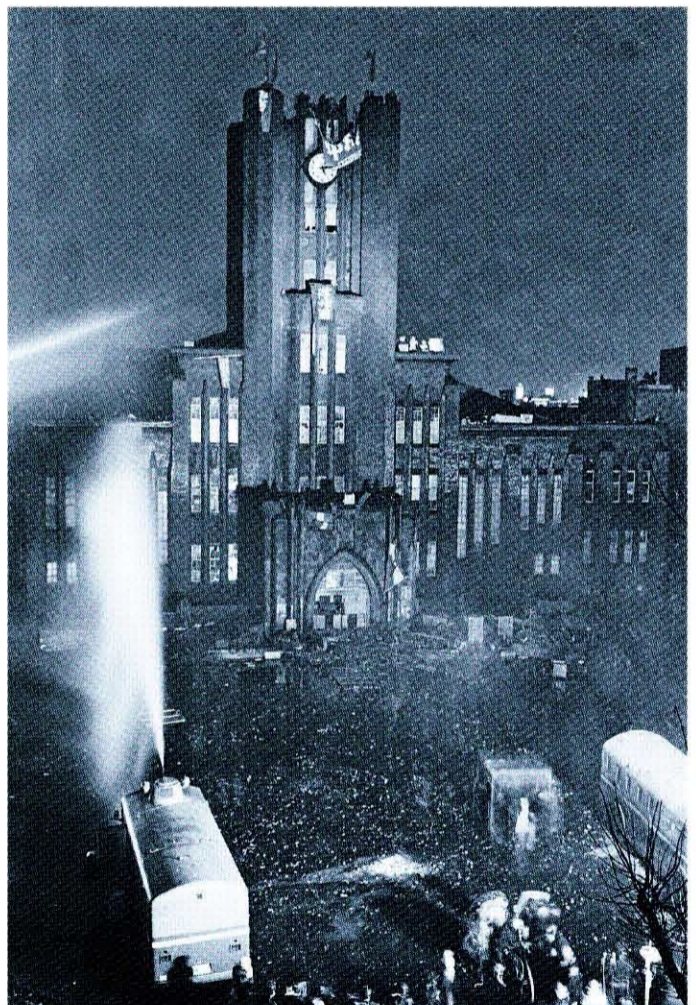
長（学長）をつとめることは珍しいが、中曽根はそんな政治家ではない。49歳と政治家としては若かったが、すでに衆院当選9回、閣僚も経験し、「新政同志会」という派閥を率い、将来は宰相を目指すバリバリの若手実力者だった。加えて初当選以来、吉田茂政権と対決し、「青年将校」といわれた。今風に言えば「イケメン」で弁舌もさわやか、文句なしに格好いい政治家でもある。その中曽根がなぜ、わざわざ大卒の注目を集めた。自民党の衆院議員、中曽根康弘が拓殖大学の第12代総長に就任したのである。拓大では、初代の桂太郎をはじめ第3代の後藤新平ら政治家が総

長（学長）をつとめることは珍しいが、中曽根はそんな政治家ではない。49歳と政治家としては若かったが、すでに衆院当選9回、閣僚も経験し、「新政同志会」という派閥を率い、将来は宰相を目指すバリバリの若手実力者だった。加えて初当選以来、吉田茂政権と対決し、「青年将校」といわれた。今風に言えば「イケメン」で弁舌もさわやか、文句なしに格好いい政治家でもある。その中曽根がなぜ、わざわざ大卒の注目を集めた。自民党の衆院議員、中曽根康弘が拓殖大学の第12代総長に就任したのである。拓大では、初代の桂太郎をはじめ第3代の後藤新平ら政治家が総

長（学長）をつとめることは珍しいが、中曽根はそんな政治家ではない。49歳と政治家としては若かったが、すでに衆院当選9回、閣僚も経験し、「新政同志会」という派閥を率い、将来は宰相を目指すバリバリの若手実力者だった。加えて初当選以来、吉田茂政権と対決し、「青年将校」といわれた。今風に言えば「イケメン」で弁舌もさわやか、文句なしに格好いい政治家でもある。その中曽根がなぜ、わざわざ大卒の注目を集めた。自民党の衆院議員、中曽根康弘が拓殖大学の第12代総長に就任したのである。拓大では、初代の桂太郎をはじめ第3代の後藤新平ら政治家が総

長（学長）をつとめることは珍しいが、中曽根はそんな政治家ではない。49歳と政治家としては若かったが、すでに衆院当選9回、閣僚も経験し、「新政同志会」という派閥を率い、将来は宰相を目指すバリバリの若手実力者だった。加えて初当選以来、吉田茂政権と対決し、「青年将校」といわれた。今風に言えば「イケメン」で弁舌もさわやか、文句なしに格好いい政治家でもある。その中曽根がなぜ、わざわざ大卒の注目を集めた。自民党の衆院議員、中曽根康弘が拓殖大学の第12代総長に就任したのである。拓大では、初代の桂太郎をはじめ第3代の後藤新平ら政治家が総

長（学長）をつとめることは珍しいが、中曽根はそんな政治家ではない。49歳と政治家としては若かったが、すでに衆院当選9回、閣僚も経験し、「新政同志会」という派閥を率い、将来は宰相を目指すバリバリの若手実力者だった。加えて初当選以来、吉田茂政権と対決し、「青年将校」といわれた。今風に言えば「イケメン」で弁舌もさわやか、文句なしに格好いい政治家でもある。その中曽根がなぜ、わざわざ大卒の注目を集めた。自民党の衆院議員、中曽根康弘が拓殖大学の第12代総長に就任したのである。拓大では、初代の桂太郎をはじめ第3代の後藤新平ら政治家が総



東大安田講堂の封鎖解除にあたる機動隊。「全共闘時代」を象徴する事件だった—昭和44年1月18日

昭和40年代以降の総長

昭和46年3月、中曽根康弘氏が辞任した後、総長に就任したのは拓殖大学教授（商法）、学長などをつとめた豊田悌助氏で、初の拓大卒業生の総長となった。その後54年からは元スリランカ・ビルマ大使の高瀬侍郎氏、平成3年からはチリ大使やブラジル大使をつとめた小村康一氏と、外務省出身の総長が2代続いた。平成7年には大蔵省出身で、防衛庁経理局長や行政管理事務次官などをつとめた小田村四郎氏が就任した。15年12月からは、小田村氏に代わってやはり拓大出身で大学事務局長や常務理事から理事長となっていた藤渡辰信氏が第16代総長を兼ねている。なお現学長は産経新聞「正論」メンバーでもある渡辺利夫氏である。